

会 議 録

1 会議名

令和2年度第4回谷浜・桑取区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【報告事項】

- ・くわどり湯ったり村の現況について（公開）
- ・リフレ上越山里振興(株)の経営状況について（公開）

【協議事項】

自主的審議事項について（公開）

3 開催日時

令和2年9月23日（水）午後6時30分から午後7時52分

4 開催場所

上越市立谷浜・桑取地区公民館

5 傍聴人の数

2人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 坪田 剛（会長）、安達麻美、齊藤徳夫、佐藤寿美子、佐藤峰生、
寺島和枝、荷屋和夫、平野コトミ、水嶋豊秋、横田正美（欠席2名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：中村センター長、小池係長、
霜越会計年度任用職員
施設経営管理室：竹下室長、小関係長、高島主事

8 発言の内容

【中村センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【坪田会長】

- ・挨拶

- ・会議録の確認：佐藤寿美子委員に依頼

議題【報告事項】「くわどり湯ったり村の現況について」及び「リフレ上越山里振興㈱の経営状況について」担当課へ説明を求める。

【施設経営管理室：竹下室長】

- ・挨拶

先日の地域協議会で公の施設の再配置計画における「くわどり湯ったり村」の方向性については「保留」と説明させていただいたが、私どもは当施設が地域にとって重要な施設であるということを十分認識している。ただ一方で平成17年の合併により類似の施設が近隣にあり、建設から20年、30年経つ中で利用者や売上の減少、また、施設自体が老朽化している中で、この先何年、現状のままで継続していくのか、現状のサービスを維持できるのかという懸念がある。そういった中で地域協議会委員の皆様や地域の方々へきちんと説明させていただき、今後の施設の方向性を協議していきたいと考えている。

本日はくわどり湯ったり村の現況やリフレ上越山里振興㈱の経営状況について説明させていただき、現状について皆様方と共通認識を持っていきたいと思っている。

それでは、担当から資料に基づき説明させていただく。

【施設経営管理室：小関係長】

- ・資料No.1 「くわどり湯ったり村の現況について」、

資料No.2 「上越市周辺における主な温浴・宿泊施設の位置図」に基づき説明

【施設経営管理室：高島主事】

- ・資料No.3 「出資法人等経営状況報告書」に基づき説明

【坪田会長】

当施設については、谷浜・桑取区にとって非常に大切な施設だが、中山間地振興の関係で建設された経過がある。現在は人口が減り、経営も非常に苦慮されている中で、何とか踏ん張っていただき、地域の皆さんの力で正常な形に戻していきたいというのが私の思いである。

説明に対し、質疑を求める。

【水嶋委員】

資料からも当施設が大変厳しい状況だということが分かるが、直近では黒字が出てい

るとのこと。だがそれも、市が設備等に関わっているから黒字であって、民間企業だと大変な赤字だと思っている。もし市が手放してしまえば、どうなるのか。

【施設経営管理室：竹下室長】

現在、当施設については指定管理者制度という仕組みを導入している。指定管理料をどのように決めるのかと言うと、基本的な収支予測差額の不足分を行政から指定管理料として支払っている。水嶋委員がおっしゃったとおりに、仮に支払額がゼロになると第3セクターの経営状況が悪化する。例えば、それにより同社が解散等になった場合、管理する者がいなくなる、といった事態が想定される。

現在の当施設の指定管理料は3,500万円弱だが、利用者数が減ったり、宿泊者数が減ったりしても市が公の施設として残していくとなると指定管理料も増額していくことが見込まれる。

【水嶋委員】

資料を見ると債務超過となっていて施設も老朽化している。民間に譲渡したいとなっても、引き受けてくれる企業はないのではないかと。近隣にはうみてらす名立や民間の温泉施設もある。当地域で応援できるのかと言ったら、1,600人程度しかいない地域で何ができるのか。地域だけで守っていくのは厳しい面もある。

【施設経営管理室：竹下室長】

水嶋委員の質問とは少しずれるかもしれないが、施設を建てた際、県や国からの補助金が相当額出ていた。現在は耐用年数が近づいてきているが、耐用年数が到来した時に建て替えることができるのかどうか。その時、使える補助金があるのか、というところを担当者として非常に気にしているところである。そういった現状も皆様方にお伝えして、施設の方向性を判断していかなくてはいけないと考えている。ただ、施設を活性化させるためには指定管理者や地域の皆様方だけで施設を残していけるのかということを担当者のレベルで考えているところである。

では、市として利用促進を一所懸命行ってきたのかとなると、担当者として本来そうあるべきではないと思っている。もし、存続させていくのであれば、関係者が一丸となって活性化に向けた取り組みが必要となってくると思うし、単に日帰り温泉や宿泊といった機能だけを求めるのであれば、それは本当に行政が担うべきものなのか。行政が公金を投入してまで残すとなると、地域の皆様方が、いかに施設を活用していくか、地域振興にどのように貢献していくか。全国的に見ても財政状況が厳しい中なので慎重に判

断していかななくてははいけない。

【坪田会長】

指定管理期間が令和4年3月31日までとなっている。どの程度まで行けば当施設を管理していけなくなるのか。何か目安があるのか。

【施設経営管理室：竹下室長】

存続させるにしても耐用年数が法律で一定程度示されている。それより早く使えなくなることもあるし、逆にそれ以上長く使えることもある。そのため、いつまでというのは決められない。ただ、先を見据えた中で修繕をしていかななくてははいけないし、経営状況も厳しくなっていくと、そこへ公金を投入しなくてははいけなくなる。そういった場合も想定されるので、本当に残していく施設なのかを見極めながら明確な判断をしていきたいと思っている。これから、地域の皆様方と判断をするために協議を重ねていきたいと思っているので、現在はきちんとした答えを持ち合わせていない。市としても細かいデータの分析等を行っており一定の考えもあるが、まずは現状を説明させていただく。そして地域の皆様方からの意見も判断材料にしていかないと、市だけの一方的な判断はあってはならないので、そこは肝に銘じ話し合いを行っていききたいと思っている。地域協議会の皆様方に説明させていただくほか、町内会長連絡協議会や地域住民の皆様方の意見もお聴きしながら、当施設はどうするのか、または上越全体の温浴宿泊施設をどうするのかというところを考えていきたい。

【坪田会長】

結果的には経営利益を上げないと存続できないということだと思うが、経営利益が少なくても地域の皆さんから利用してもらって、住民一丸となって施設を応援している姿が見える。施設を使って行事等を行っても結果的に営業利益が上がらないと何もなくなってしまおうということだと思う。

【施設経営管理室：竹下室長】

私個人の意見となるが、公金を投入する理由について、単に日帰り入浴や民間が行っているホテルや旅館等に類する機能になるのであれば、そこに公金支出としてどうなのかということが出てくると思う。

例えば施設があることによって地域が振興していく、住民の生きがいになるというような考え方もあると思っている。あとは総体として地域のそれぞれの施設を保てるだけの経営資源が将来的に約束されているのであれば当然存続ということもあるだろうし、

存続させていくにあたっては、赤字の部分を黒字にするような取り組みは必要だと思っており、慎重に協議を重ねていきたいと思っている。

【坪田会長】

今年は新型コロナウイルスの関係で相当な減収となっていると思う。同じリフレ上越山里振興株が経営しているヨーデル金谷も7月と8月と黒字で展開したが、結局は4月から赤字だったため譲渡や貸付するということが新聞に載っていた。

今回の国で行っているGoToキャンペーンの関係でも盛況ぶりを見せており、かなりの予約状況があったと聞いているが、前段の損失部分は、それで加味されるわけではないのか。

【施設経営管理室：小関係長】

今年度の新型コロナウイルスの影響について報告する。

まず施設の利用者数だが、直近の3か年の平均が2万2,700人である。ところが今年度については、現在の時点で9,700人である。直近の3か年と比べると43%減となっている。

今後の予約状況だが、10月以降は前年と比較して1桁台である。例えば前年に100人宿泊したとすれば、予約が10人未満という状況である。これらのことを考えると、今年度の収支については著しく悪化する状況が想定できる。今年度の7月までの状況だが、平均で一月当たり、昨年より約160万円悪化している。先ほどの説明で「1年間で市から約4,000万円の支出負担をしている」と報告したが、1か月で160万円悪化していることから市議会9月定例会で提案し、市が補填している状況である。これらを加味すると、先ほどの年間4,000万円の負担が、今年度については6,000万円を超えるものと考えている。だが、今回の件については「災害」に値すると考えているおり、今後の施設の在り方については多少の考慮はされると思っている。どこの施設も悪化している状況なので、これをどの程度加味するかというところは、現在持ち合わせていない。

【坪田会長】

他に質疑等はないので終了とする。

【施設経営管理室：竹下室長】

これから町内会長連絡協議会等とも協議を行っていく予定だが、意見交換後、改めて地域協議会へも説明する機会を設けさせていただきたいと思っている。

次に【協議事項】自主的審議事項について、事務局へ説明を求める。

【小池係長】

- ・資料No.4「谷浜・桑取区に関するデータ」、
資料No.5「自主的審議の進め方について」、
資料No.6「各区の自主的審議事項の取組状況」に基づき説明

谷浜・桑取区の自主的審議事項「谷浜・桑取区の子育て支援について」は、平成24年から審議を重ねてきたところだが、ここ2、3年は協議が進んでいなかった。また、他の地域課題についても様々な意見が挙げられており、今後も必要に応じて話し合いを行っていくこととしていた。この度、委員改選があり、新たな委員となったため、子育て支援については審議を終了とし、次回以降の地域協議会の中で委員の皆様が感じている地域の課題について意見交換を行っていただきながら新たなテーマで審議することもできる。

本日は、自主的審議の進め方について、委員の皆様から決めていただきたい。

【坪田会長】

- ・事務局の説明に対し、質疑を求めるがなし

では、「谷浜・桑取区の子育て支援について」は審議終了としてよろしいか。

(異議なし)

では、そのようにする。

今後、新たに自主的審議事項を見出していかななくてはいけないと思うが、それに関してはどうか。

【水嶋委員】

資料No.6に各区の取組状況で少子化や消防団等が載っているが、当区については同じような課題が上げられると思う。だが、どれを優先的に考えていけば良いのかの判断が難しい。

今ほどのくわどり湯ったり村についても、地域全体を巻き込んで話し合いを行ってけば、また違った案が出てくるかもしれない。そういう場も必要なのではないか。

【坪田会長】

私も同感である。先ほどからくわどり湯ったり村の話が出ているが、この施設が傾いたら我々も傾いてしまうと言ってしまっても過言ではないと思っている。そうであれば、

それに伴う、地域の活性化に結び付くような組織や自主的審議を行い、それに向かって行っていくのが良いのではないかと考えている。

地域活動支援事業で谷浜・桑取区のガイドマップを作成していただいたが、住民組織と地域活性化ということになれば、今、各地域が人口減少のため健康ウォークや地域巡りみたいなものが開催できないでいる。以前は谷浜・桑取区全体でも健康ウォークを行っていたが数年前に止めてしまった。地域巡りをしながら汗をかいてくわどり湯ったり村へ行ってもらい、お風呂に入って、食事をして帰るというように、いろいろなパターンがあるかと思う。

そして、当区は「谷浜・桑取区」という行政区となっているが、私個人として、この分け方がどうかと思っている。小学校も中学校も各1校で一体化しているのにも関わらず、大人の社会に入ってくると変な隔たりみたいなものがあり、谷浜は谷浜、桑取は桑取という理念の持ち方が出てくる。地域活性化のため、谷浜と桑取が一体化するという中で健康ウォークを開催し、日帰りとか、地域で採れた野菜を使った豚汁を食べたりするのも良いのかもしれない。こういったようなものを春や秋に開催すれば良いのかもしれないが、秋となると土地柄、皆さん、農業等で忙しいかと思うので話し合いをしながら決めていければ良いと思っている。

【水嶋委員】

先ほど会長がおっしゃった「谷浜・桑取区」は行政の関係で分かれているのかもしれないが、谷浜は谷浜の思い、桑取は桑取の思いがあると思うので、そこを一体化できるような方向性を見つけ出していくことが、くわどり湯ったり村に対しても一つの解決策みたいなものになるのではないかと考えている。

【坪田会長】

くわどり湯ったり村がなくなった場合、地域がどのようになってしまうか分からない。農協や郵便局もどうなるか分からない。そうなるとう疎化の一途で、取り返しのつかない状況になってしまうかもしれない。そして、小学校や中学校も統廃合という話が実際に出てきている。では、現状のままで良いのか。各地域へ帰ったら、いろいろな意見もあるかと思うが、一体化をしていくためにも自主的審議を進めていき、お互いに地域交流できればありがたいと思っている。

そのために市のバス等も利用できるかと思うが、どうか。

【小池係長】

地域活動支援事業で作成したガイドマップを利用して地域を見に行ってみようか、ということであれば委員の研修扱いとさせていただくので、市のバスを使うことは可能である。日程やルート等は会長と相談しながら決めていきたいと思っている。

そして、健康ウォークという話が出ていたが、それをどの団体が中心となってやるのか。地域協議会は実施団体になれないため、地域協議会主催で開催することはできない。谷浜・桑取区を1つの地域として見つめ直すという取り組みは良いことだと思うので、もし、研修を開催するのであれば日程等を決めていただきたい。

【水嶋委員】

ガイドマップを作成した「谷浜地域づくり協議会」の副会長とお話したことがあるが、「せっかく良い物を作っても地元住民が地元のことを知らなければ、他地域の方々へ宣伝ができない」、「マップを使って地域巡りをしてほしい」とおっしゃっていたので、是非、実施してほしい。

【坪田会長】

ほかの皆さんはどうか。

【横田委員】

私は60年近く住んでいるが、民俗行事等も含めて意外と見たことがないし知らないことが多い。地元を知ること、地元の良さを再認識できて、最終的には地域をどのように活性化させるかだと思っている。人口減少や少子高齢化というのは自然の流れで、地域協議会でも過去何回も議論をしたが、人を増やすことはなかなか難しい。人口が少なくなっていく中で残った方々が、どうやってより良い地域にして元気で過ごしていくこと、そういう意味の活性化を模索していければ良いと思っている。そういう意味でも自分自身が地域を知ることが大事だと思っているので、地域を巡る機会があれば参加したいと思っている。

【寺島委員】

私も地域を巡ることは賛成である。

【佐藤峰生委員】

前期の際、地域活動支援事業で提案された箇所を視察したという経過がある。今回もマップ内に記載されている場所を回るとするのは地域協議会の活動としては趣旨が合うのではないかと考えている。

それとは別の意見で、くわどり湯ったり村の利用客を増やすために地域協議会が間接

的に役立つことができないかと思っているので、私の意見を聴いていただきたい。

昨年の地域活動支援事業で旧高住小学校の記念碑と西山寺のバス停を改修する事業を採択し、両事業とも実施された。この2つの提案がくわどり湯ったり村の利用客を増やすことには繋がらない。では、繋げるためにはどうしたら良いのか。

突飛な意見かもしれないが、西山寺の完成したバス停は普通のバス停である。そうではなく、旧高住小学校の卒業生の中にデザインや建築に関わっている人がいたら設計等をお願いして、テレビ番組等で取り上げてもらえるようなユニークなバス停を造ってもらおう。

旧高住小学校の事業も石碑を造るだけで終わりではなく、それをきっかけにして旧高住小学校を卒業した人たちがネットワークを使って自分や家族、友人を連れて当地域に来てもらうという企画をして、くわどり湯ったり村にも立ち寄ってもらう。

2つの単独の提案をこのような形で繋げていくことはできないか。

昨年の事業について、何故今になって言うのかというと、来年以降に私が話しているようなことを盛り込むためには、どうしたら良いのか。そのために過去の提案内容を地域協議会委員で確認して、くわどり湯ったり村に集客を増やすイベント等に繋がる事業がないかどうか、地域の魅力をアピールして谷浜・桑取区に来た方々に、くわどり湯ったり村を利用してもらうことに繋がる事業がないかどうか。

まずは、たたき台を作って今までの提案団体の方々に逆提案したらどうかと思っている。

旧高住小学校の記念碑と西山寺のバス停は全く関係ないかもしれないが、西山寺のバス停を使って通学した子ども達がいる。その人たちが旧高住小学校を卒業していると思うので、その辺で繋がらないか。各提案にプラスアルファの魅力というか、地域の活性化、くわどり湯ったり村の利用客を増やすというふうに展開していけば、地域協議会が地域の活性化に対して入口から参画できると思っている。

【佐藤寿美子委員】

私も「谷浜・桑取区」と言うのが、少し離れていたのだと思っている。それを今1つにしようとしているから「谷浜・桑取区」と言われると少し違和感がある。

今、地域内でいろいろな方々がいろいろな活動をされているが、会の事や活動内容を全く知らない人たちが多くいるように思う。それを活用する場があれば良いと思っており、運動普及推進員でウォーキングを行い、食生活改善推進員で何かを作るというよう

な繋がりがあれば、会同士でも繋がっていき、連携し合って何か1つのことを行うのも良いのではないかと。

私は潮陵中学校の地域安全支援委員をしているが、その活動を誰も知らない。谷浜小学校や潮陵中学校の自転車教室やたにはま保育園の交通安全指導の際にも参加しているが、地域の人たちは知らない。話し合う場もないため、いろいろな活動を知ってほしい。

【水嶋委員】

確かに団体は多数いるが、何をしているのか、どのような話をしているのか分かっていない。

【佐藤寿美子委員】

学校の文化祭等で紹介できるような場があれば良いのではないかと考えている。

【齊藤委員】

先ほど、バスで区内を回るという話が出ていたが、それは賛成である。

私は長浜だが、ここにも桑取まで行かず、町名を言われても、どこのことだか分からない。なので、地域を知るというのも良いのではないかと考えている。ガイドマップも作成していただいたので参考にさせていただき、皆さんと一緒に勉強しながら回ってみたいと思う。

【坪田会長】

皆さんから地域の活性化に向けて何らかの方法や形で見聞したいという意見をいただいた。そして、地域のための活性化を図っていきたいという意見を大半の方々がお持ちのようなので、それを含めた自主的審議事項を作らないといけないと思っているが、いつまでに作らなければいけない、というものはあるのか。

【小池係長】

自主的審議事項に期限等は決まっていない。今出していただいた意見を元に決められれば良いと思っている。

そして、地域内を回りたいという件だが、日程的にはいつ頃がよろしいか。

【坪田会長】

11月の始めくらいに開催したいと考えている。日程は事務局と相談の上、決定とさせていただきます。よろしいか。

(異議なし)

次に「その他」について、事務局へ説明を求める。

【小池係長】

次回の協議会については、現在、諮問等の案件は入っていない。議題等が決まり次第、会長と相談の上、皆様へ連絡させていただく。

【坪田会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp 1

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。